

## 光輝くエンジニアリング・ブランド

一般財団法人アーネスト育成財団  
理事長 西河洋一

新年あけましておめでとうございます。当財団は豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的に、技術経営人財の育成に取り組んできました。財団の主力事業である西河技術経営塾は、いま学んでいる5期生を含めると、20名の塾生を育成することになります。塾での学びを経営に生かし、それぞれ独自の特徴ある運営で成果を出し始めています。

入塾すると塾生に、売上を10倍にする経営戦略を考えるよう指導します。これを実現するには、経営学を学び、目標に向かって計画を立てて事業に取り組む必要性が出るからです。これが経営者としてのスタートです。10倍という高い目標は、精神論で「頑張ろう」と、従業員を励ますだけで実現できるものではありません。3年とか5年とかの計画を立てて、組織的に人財を育成し、併せてモノとカネに関する戦略を立案し、地道に役割分担を決めて取り組まなければ実現しません。

その時重要なのは、保有する自社の強みを正確に把握することだと指導します。事業を支えている強みの源泉に会社が持つエンジニアリング(技術)があることに気付かせます。ものづくりでも、コトづくりでも、お客様とのビジネスを支えているのはエンジニアリングなのです。技術のブランドであるエンジニアリング・ブランドの存在を認識させることで塾生の会社の強みづくりを指導します。私が経営者となり初めての年の売上高は54億円でした。2000年から2017年迄の17年間で、売上高が1兆2324億円となり、228倍の成長を実現しています。数年で10倍の目標は決して不可能なものではありません。

大きく成長する企業を、傍から見るとスーパーマンのような優秀な経営者が率いて、何か他と違う特殊なことをやっているのだと思われがちですが、そうではありません。目標に向けて計画を立てて、組織化して、細かな戦略を立案し、それを実践し、コツコツと地道に経営を行ってきた結果が大きな成果として現れたものだと思います。『成せば成る』の精神で未来に向け大きな夢を抱きましょう